

アルゼンチン・イグアスにおける世界遺産とグリーン・コリドー

1. 地域の概況

世界遺産のイグアスの滝はアルゼンチンとブラジルの国境に位置する瀑布で、ここは大西洋岸林の中にある。大西洋岸林とは、南米大陸東部の熱帯・亜熱帯地域を占めるかつては広大な森林生態系で、その生物多様性が極めて高く、しかも今日危機に瀕している「ホットスポット」の一つでもある。「グリーンコリドー」(緑の回廊)とは、アルゼンチン国内の一つの州ミシオネスが、州法によって自然保護区の連続性の維持を目指した画期的な試みである。



図 アルゼンチン北端国境地帯のイグアス地域における保護区とグリーンコリドー

2. 自然林の中での持続的な農牧活動

イグアス国立公園に隣接し、「グリーンコリドー」が大きく占めるアンドレシート市では、キャッサバ、マテ茶や柑橘類が栽培され、牛を放牧する農業地帯である。地元の懸念は、タバコやマテ茶の集約栽培における農薬や化学肥料の過剰利用にある。環境NGOの支援で有機農法が一部導入されている。この地域の自然林は、常に開発の危機にさらされている平地林ではあっても、地元自治体は1980年から開墾が始まり、人口も少ない。コリドー内の360に及ぶ農家では、所有土地面積に44%の自然林を保存する。このように当域は野生生物が生息する自然林と調和した、持続的農業が可能な里地、里山的地域である。



図 エコツーリズムや環境教育の拠点としてのエコ・ロッジ 出典：自然研

3. 生物多様性保全に向けた取組み

地元農民は、世界遺産としての価値や自然保護区からの恩恵を感じていない。自然環境研究センターの担当した2004年から3年間のプロジェクトでは、環境教育セミナーの対象を、現地事情から環境関連の職員や教師に限定した。セミナーでは、必ず講義とフィールド実習の両方を行い、生物多様性を実感できることを重視した。辺境の教師にとって、研修体験の印象は深く、直ちに生徒への授業に結びついている。



図 環境教育セミナー研修

出典：JICA. アルゼンチン国イグアス地域自然環境保全総合報告書. 2007. 自然研ホームページ

<http://www.jwrc.or.jp/argentine/new/index.htm>